

Wの書 1

mahelsh

この記された書はwによって神の言われたことの記録であってwの気まぐれの記録ではない。ただ神は色々な方々がおられる。すべてを造られた神からwとよく意志疎通される神々までおられる。ただし全てに於いては創造の神の知られるところとは成るのである。次にはwの過去からの世界観、つまりに神々が伝えられる過去からの伝承を、お伝えしよう。この書の内容は想像を超えている。しかしそのことが神々が伝えられた事柄なのである。それでは、先ずエデンの園から始めよう。

最初の時、園には、巨大な、めすの蛇、長さが8メートルから9メートルもある蛇が、ただ一匹だけおった。ある時この蛇の所業の何が神々の怒りに触れたのかは知る由も無いのだが、神々によってこの蛇は、九つのからだに分けられたのである。そしてその九つのからだは、九人の男と成った。その新たに造られた男たちは女を求めて他の星へと旅をし、それぞれの相手を見つけ夫婦となった。そののちその九組の夫婦からその子孫が現れ、その子孫からの一部がこの星を住まいとして人類の基と成った。その子孫も天地創造の神の大洪水に依って、ほぼその人類は消滅させられたのである。今、この星に居る人々は、今から1850年先の未来の火星から飛び立って、12000年前のこの星に到達した飛行士の子孫がこの星の大多数の文明を創造したその子孫が我々の元なのである。そしてもう一方には、今から9000年前に太平洋に消えた、ムーの残存者、中国名、姜太公（ジャン タイコン）、（9・44）つまりに、トト・ダダがエジプトにピラミッドを創り上げ、中国へその文明の基を渡し、そしてシュメールを創り上げたのである。しかしそのシュメールも4000年前に消え去った。そして12000年前の飛行士の子孫のエブラも4000年前に消え去った。しかし、その後に残された、アブラムとサライ、詰りに、アブラハムとサラに依ってこの世界はもう一度造られたのである。

この国へ4000年前に来たアブラハムとサラは、そこで子孫をもうけて、そのほぼ500年後の出エジプトの時代と成るのである。詰り、何故にグリーンランドまで、この日本人そっくりな民族が居るのかは、それは、イサクの子孫であるヤコブの兄のエサウの子孫がその民と成ったからであり、アイヌ人もアブラハムの子孫である。出エジプトとして、この地を脱出しなかった人々の子孫がアイヌ人と成ったのである。詰りにアブラハムとサラが、この地へ連れて来られた時、そこは、もう一つのエジプトが有り、エジプト人が居たのである。そのエジプト人達は、元来、近東に居たエジプト人達と先祖を同じくする民で有ったが、今から7500年前に、シュメール人に依って奴隷とされたエジプト人達は、海上ルートによってインド方面へ入植させられ、それから1000年程経過後、詰り今から6500年程前頃に、又、シュメール人達に依って、この国へエジプト人達は入植させられたのであった。斯様にして、この国は6500年前より、もう一つのエジプトと成っていたのであり、そしてそのエジプト人達には、王が居たのである。詰りアブラハムとサラは、神に依ってこの地へ来てから、そこが、元来のエジプトであると信じて疑わなかったのであり、その考えは、出エジプトの時まで変わらないのである。彼らにとっては、そこが初めてのエジプトであったのである。この国の山並みに有る、鞍部と称する

土木工事は、この国に居たイスラエル人がエジプト人の奴隷として働いた痕跡なのである。そして出エジプトの時、二つに割れた日本海を通過して、朝鮮半島へ渡ったのであり、その後を追ったエジプト人達は日本海に沈んでしまったのである。そして広大なユーラシアを旅した、主にイスラエル人達は、40年の歳月を経て約束のカナンの地に辿り着いたのである。何百万人も民が旅をした時間が40年必要であった。神はこの40年に多くを記録されはしなかったのである。この事は、エサウのずっと後の子孫が、どうなったか記されていないのと似た事柄なのかも知れない。このことは創世記の、アブラハムから、約束のカナンの地までの記録は、今まで中東の狭い地域だけで完結していた事象と思われていたのであるが、wの聞いた事柄は、その想像を、遥かに超えるスケールの世界なのであり、そこで世の人々は、目を開いて欲しいのである。ここで一つだけ、その記憶の痕跡を紹介しよう。近江の地にある、弁柄（ベンガラ）塗の家屋は、何故に有るのかと言う事柄であり、つまり出エジプトは、その当時、現在の伊勢の地がそのエジプトの中心が有ったのであり、その地に居たイスラエル人と一部のエジプト人は、その地を脱出したのであり、近江に有るベンガラ塗は、エジプト人の長子への災いが、イスラエル人に降りかからない様に、住んでいる家の鴨井、柱に羊や山羊の血をぬった事の記憶の産物なのである。つまりその血を、ベンガラで代用しているのである。このベンガラは一部、岡山にもある。現代には何故にその色を塗るか、定かでなくとも、その行為だけが3500年続いているのである。但し、わたくしwは、そのベンガラ塗の家屋に住まいすると非常なる平安を感じるのであり、その色の有る世界は、正に神々に守られて有る、神々と共に有る世界に思うのである。神は申される。この近江のベンガラ塗の家屋は、呪いを一番、受けにくい建築様式であると言われる。何百年も前に描かれた伊勢神宮の宮に、この色は描かれていたのであり、いつの間にか色が消えてしまったのである。(BHAB)OK。つまり、この国が明治以後、不幸な世界へ走ってしまった、その原因の一つは、この宮に色を施さなくなった事ではないだろうか。春日大社や平安神宮の様に色を施して有る宮に神は臨在し給うのではなからうか。わたくしwが行ったことのあるヒンディー寺院に有るゴープラムにも、色彩を施す作業は行われているのであり、日本人の目からするとわびさび観もあり、砂岩の地肌の美しさのまま、仕上げとすればいいようにも見えるのだが、彼らは必ず、その岩に色彩を施すのである。これは芸術作品ではなくて神の宮であるからである。斯様にして、宮には色が必要なのである。もう一つの理由を挙げさせて頂くと、神々にはその物質的ではない存在にしてもほぼ固有の色彩をお持ちである。この事は秘められた事柄であるのでどの神が斯様な色彩であるとは、ここでは述べはしないが、固有の色彩をお持ちである事を、知って頂きたい。斯様にして、この我々が神にお出でいただく、或は住まいして頂く為には色彩が必要なのである。(Vish)ok.その為に、このベンガラ塗の色彩にはこの色を好まれる神々が来られるのであり、住まわれるのである。朱塗りの宮には、この色を好まれる神々が、来られるのであり、住まわれるのである。このことを我々は忘れてしまっただけではないのである。誰のための、宮であるのか。神々の為の、宮である。人の満足の為の宮なのではない。神は人の上にあるのだ。人の世に有っても、夜に月明かりもなく、真っ暗な夜道に、細々と、出掛け安くはない。明るく街燈が点いていれば、難なく用事を済ます事が出来ると言うものである。神々の為に色を施そう。色無くば神々は、来難からう。神々をお迎えする為に色を施した宮であるべきではないのか。今

そのことは一番必要な事柄で有ろう。

次には、666の事を記そう。何が、666で有るのか。wが以前に記した通り、イザヤ書の、66章有るうちの、6章に記されて有る、第一神殿の敷居が震えた象意が記されて有る事が、666の意図する所であり、その震えに依って、イスラエル人への、呪いの予兆を意味するのである。それは始まりの始まりである。そこでその起点は、何時であるかである。BC685年が起点である。詰り、ここから呪いは繰り返されていくのである。始まりの666年で、BC19年と成り、呪いは解かれなかったのであり、次なる666年にも、AC647年と成り、呪いの解消は無かったのであり、次なる666年で、AC1313年と成り、又もや呪いの解消は、出来えなかったのである。そして、次なる666年と成り、ようやく神々の力に依って、この大いなる呪いは、1979年にて、終焉を迎えたので有る。2664年掛かったので有る。詰りは、もう今の世は、この呪いは、終わったのであり、この間に、その呪いをかわす為に神の目をも、欺く行為をしたそのシステム、つまりに、その呪いかわしの言葉が、逆に今は呪われの言葉と成っているのである。この事は、この国では隠されて来た事である。今から1500年以上遡る時代に、この事は、行われたのであり、悪のラホに依って、徹底した国語改革に依り、この呪いは、封じられたのであった。それは大いなる成功を見たので有り、その為にそれ以前の言語、詰りは、名前は封じられたのである。そしてそれ以前の文化の代表で有った、この国の紀元を造り上げた、神々の僕（しもべ）で有ったものの子孫で有った七人のサムライの名前も、封じられてしまったのである。彼ら七人は、その文化言語と共に、死を以て消え去られたのである。（VHAB)OK。しかし今は、その1500年以上前の、悪のラホの嫌ったイスラエル、ヘブライの言葉が、吉祥成る言葉と成ったので有り、この国の今の言葉が、呪われの時と成っているのである。1979年に、イスラエル、ヘブライの言葉の喪は、開けたので有り、吉祥成る言葉と成ったのである。この国の言葉を、元の吉祥成る言葉に戻さない限り、この国の、呪われは、続くであろう。否、その呪いは新たに始まったと言うべきなので有る。七人のサムライ以前の名前に戻さない限り、この国の呪いは続くで有ろう。（Vish)OK.

それは、言語なのでは無い。言葉が呪いを発するのである。文法なのでは無い。言葉なのである。（FthAB)OK。今にしてみれば、バイブルに記されている大量の名前の記憶は、何の為に有ったのかである。バイブルは、何の為に残されたのか。その物語は、何の為に、必要としたので有るのか。それは、今の様な、時代を迎えた時に、その名前を必要とする預言としても語られているのである。聖なるイスラエル、ヘブライの名が、聖なる時を、迎えた時に、復活出来る様に、それは、神々の取り計らいなので有る。そして、ゲマトリアに依って、この国の使われている名前を、戻す時、それは、大いなるしるしなので有る。そして、その名前が、呪われの無い名として復活を遂げた時には、バイブルの神は、良しとされるで有ろう。（VHAB)OK。もしも、バイブルが、名前だけの記載の書で有ったなら、長く残る事も、また、親しまれる事も無かったで有ろう。その名前を残す為には、その名前の物語が、必要で有ったのである。しかし、その名前を残す必要が有ったのである。神は、名前の神なので有る。（MEAB)OK.

ここに、記されて有る事柄は、私wと言う者が、神で有り、人を創造された方々から、私wに伝えられた事の記録で有って、わたくしの想像なのでは無い。その伝えられた内容は、今の人類が

、未来へ向かって飛躍する為に、どうしても必要な理解で有るので、今まで記された内容と異なるのは、今まで神に依って、秘匿されてきた内容で有り、今までの人類には、受け入れられなかったからである。しかし、いつかは、人類は、神の伝える、真実の姿に理解を示す時期が来るので有る。その内容が、どれだけ飛躍していても、その先に有る、未来を拒むことは出来ない。それは、創造主に依って、取りはかられた事柄なので有る。この人類の歴史こそ、又、神々の歴史なので有る。(VHAB)OK.

BC 685年に始まった、ヘブライの呪いは、AC 1979年に、終焉したのである。そして、そこから、1025年の時を、経た後、人類は、火星に入植するので有る。(Vish)OK. AC 3004年が、その年で有る。

人類は、もう一度、火の洗礼を、受けなければならない。それは、神の取りはかられた事柄なので有る。(Vish)OK.

AC 1979年以降、ヘブライの呪いは、詰りに、ヘブライ名の呪いは、無くなったので有り、逆に、それをかわす名を、創造したその名が、呪われの名と、成ったので有る。詰り、この国の、今の言葉の名は、1500年以上前に、創造されたので有って、その名が、呪われの名と成った事を、知らねばならない。今、ヘブライの名は、吉祥なので有る。(MEAB)OK.

1500年以上前の、悪のラホは、今と成っては、呪いの名を、創造した事になるので有る。依って、この国の人々は、今、呪いの言葉を唱えて居る。(MEAB)OK.

私wは、今まで、この国の言葉と、ヘブライ名は、コインの裏、表の様な関係で、一旦、ひっくり返ったら、なかなか、元には戻らないと、記したので、有ったが、実際には、コインの裏、表位で有れば、又、簡単にひっくり返られるので有るが、この世界、宇宙がひっくり返ったので有るので、逆に、コインの裏、表の様に簡単に返す事は出来ないので有る。詰り、このひっくり返しを、行われたのは、人の手の及ばない、神々なので有るからである。今から、1500年以上前に、この国の名前を造り上げた、悪のラホは予想していたで有ろうか。しかし、ただ一つ、彼らの、善を見出すとするなれば、この順ゲマトリアに依って、母音は無視されたので有るが、古代の名の、子音だけでも残して置いてくれたことのみが、微かな善とは成るので有る。この子音名から、逆ゲマトリアに依って、元の名を求めなければ成らない。(VHAB)OK.

今、この記されている事柄は、ルベンの僕(しもべ)には、空恐ろしい事に成るやも、知れないのだが、心配には及ばないので有る。ヘブライの呪いは、もう消えたので有る。この国の、ルベンの僕には、だれ一人、この事に、気付く者は無い。イスラエルの笏は、ユダから離れる事は無いと言う、預言が成就されるので有る。(Vish)OK.

それは、名前の問題であって、文法の問題では、無い。何故に、バイブルには、大量の名前が、保存されているのかで有る。それは、その名前の記録が、本質なので有り、それが、全てで有るのではないのか。詰り、シエムとは、名を、付ける神で有るのだ。名前が、霊を、一つの存在へと、結びつけている、力なので有る。神を、ヤーウエと、唱えては、いけない。これからは、シエムと、名を呼び、記さなければならない。しかし、もし、土地の名を、逆ゲマトリアを介して、ヤーウエと成れば、それは、厭わないと言われる。しかし、w以外の方々が、記すときは、シエムと記しても、良いので有るが、話す時、唱える時に、シエムと、呼んではいけないので

有る。wが、シエムと、呼んでも良いのは、w自身が、シエムで有るからであると申されるから
で有り、それ以外の方々は、シエムでは無い為に、シエムと唱えては、いけないので有る。この
国の、土地の名、物の名、人の名、全ての名を、ヘブライ名に変えれば、この国の、呪いは消え
るので有る。(Vish)OK.

ISAIAHは、この国へ来てから、イスラエルに於いては、66章の預言書を、したためたので有っ
たが、67章から、77章までの、預言書を、残したので有った。悪のラホの時代に、持ち去ら
れたので有り、それは、この世から隠されたので有る。七人のサムライが、滅びた時で有った。
それは、19代王の時代で有った。その預言書の内容は、八八聖賢紀が始まる前に、二人の、ケ
ルビムが、現れて、聖賢に依る呪いの、封じが、完了する預言が、記されて有ったのである。

(Vish)OK.

八八とは、何で有るか。それは、この国の名である。最初の八は、古代の八の字、ハットを表し
、次の八は、メオットを表す。八八とは、この国の名を表す。(FthAB)OK.

彼ら、悪のラホの一派は、七人のサムライの亡き後、ISAIAHから伝わっていた、預言書をこの世
から葬り去ったも、同然の所業を行ったので有るが、それは神の知るところであり、その記録は
消えないので有る。それから1500年以上の、歳月が経とうとも、かれらの悪事は消えない。
消えない処か、wに神々から、1500年以上前に、行われた事柄は直々に伝えられたので有る
。その預言書をかれらが、導き出してくれなくとも、神々には良く知られた事柄で有る。しか
し今、ヘブライの呪いが、費え去った今、この国の今の呪われの言葉を、吉祥なる言葉に、戻す
時が来たので有る。(FthAB)OK.

七人のサムライの中の王、19代王ダヤの娘、アヤは、形の上では、王位を継承しているが、そ
れはあくまで、傀儡とでも言うもので有った。つまりそれは、悪のラホの仕組んだストーリーを
、成就する為の手段と成った。そしてこのラホに依る徹底した文化クーデターに依り、アヤ以前
、否、ダヤ以前の歴史は、封印されたので有る。(VHAB)OK.

七人のサムライが殺されなければならなかったのは、あくまで彼らが、頑なであったと言う事
以外、彼らに何か特別な落ち度が有ったのでは無かった。彼らこそ、正統的な王族なので有った
。彼らは、亡くなって行くとき、1500年後の、又、自分たちの文化が、蘇る様を、神々から
告げられ、そのことのみを救いを見出して、消え去ったのではなかったか。(FthAB)OK.

神々は、古代に於いて二つの王を以て、地の国を治めようとされたので有った。それは古代の統
治システムで有った。エジプトにしても世界に知られている近東のエジプトと、世界に隠されて
しまったこの国に有ったエジプトで有る。神々は、その事を以て、地を治めようとされたので有
った。イエス・キリストにしても、同様な事が言えるので有る。少年の時代にイスラエルから脱
出したイエスと30歳頃に、イスラエルに現れたイエスは、別の存在で有り、脱出したイエスは
、この国に来たので有る。30歳頃の形で現れたイエスは、歴史に名を遺したイエスなので有る
。この国に来たイエスの、功績は悪のラホの時代に、全てイエスとは、似ても似つかわしく無い
名として、葬られたに等しいので有る。(FthAB)OK.

この国に来た、イエスは、本当の名は、ラホで有る。悪のラホと区別する為には、善のラホと呼
ぼう。ラホとは、神界の名で、12月25日生まれを言うので有る。悪のラホは、反キリストな

ので有る。不思議にも、悪のラホも同じ、12月25日生まれで有った。しかし、存在していた時代が、善と悪では、4世紀以上も異なるので有る。この国には、悪のラホの時代より前の歴史は、消されたので、有りはしない。本当は、この国の歴史は、それ以前にも、もう1200年程有るのである。ISAIAHから、1200年後の時代までが消されているので有る。(BNAB)OK. この国の、紀元を創り出したのは、そのISAIAHで有った。近東に居たISAIAHは、神の僕として、何百人もの仲間達を引き連れ、ガウロス船でエチオン・ゲベルから旅立ち、この国を目指し、ガダルカナルを廻って来たので有った。この国に到達したのは、BC700年で有った。ISAIAHは、この国へ来て、新しい国家を造り出す為に、その土地に居た、多くのエジプト人の男を捕えて殺し、女を生かし子を設けさせた。それは新しい民族の出現で有った。殺された男の数は、ほぼ10000人で有る。その後、ほぼ500年後、大陸からルベンの総大将、徐市がやって来るので有る。その頃には、この国は、イスラエル人とエジプト人との合成民族の国家と成っていたので有る。ISAIAHの子孫達のこの国家に取って徐市、ルベン族は、厄介な存在で有った。彼らルベンは、呪われの部族で有るからである。ISAIAH系部族に取って、彼らルベンを、大陸に送り返す事もままならず、仕方なしに、彼らを封ずる為の土地を、与えたので有った。そこが四国で有る。それから時は流れ、紆余曲折が有り、悪のラホの時代と成るので有る。その時を迎え、この国の古代の歴史は消え去られ、今のこの国の歴史、言語が造り出されたので有る。この国の今の言語は、大陸を經由して来た、ルベン人に都合の良い言語に成っているので有り、彼らルベンに取っては何よりも恐ろしい、ヘブライの名を使わない言葉と成っているので有る。詰りに、今、この国は、ルベンの国と成っているので有る。中国人はこの国をズーベン、リーベンと呼ぶ。それは正に、ルベンなので有る。(ISAIAH)OK.

この国に於いては、ルベン人に取っての、最大の危険要素で有るヘブライ語の封じは、万全の体制で臨まれて来たので有り、現在も続行中で有る。彼ら、ルベンがこの国で政権を確立した、悪のラホの時代以後に表面には見えないようにした組織に依って徹底的に統制されて来たので有る。事実、TVに於いても、現在アラビア語の講座は有っても、ヘブライ語の講座は無い。然も、その放送時間は深夜で有り、殆ど視聴されない時間で有る。それはこの国の言語との関連を悟られない様にするためで有る。ヘブライ語とアラビア語はセム系の言語とされている為、呪いの言葉に近い言語は、封じて置きたいからで有る。因みに、アラビア語のアンタは、何の事は無い、大阪弁のあんたで有る。全くの意味は、完全に一致するので有る。詰り、この国の言葉が造られた時、全て、何も無い所から、言葉を造られたのでは無かったと言う事で有る。色々な所から言葉を寄せ集めてきていると言う具合で有る。例えば、アルファベットの場合、26文字で有るから、アンタと言う言葉は、子音表記で言うと、ANTと成り、三文字で有るに、 $26 * 26 * 26$ 通りの組み合わせが生じる。これだけの組み合わせの内、母音も同じで、然も意味も同じと成れば、もうその言葉は、元は同じ言語から発していると言うほうが、納得出来ると言う具合で有る。しかし、彼らルベンが統制して、隠して来たそのヘブライ語の持つ呪いは、1979年を以て、終焉したので有り、ルベンは尚も呪いの終焉した事を知らない。これは、彼らが、その終焉を知る術を持たない事を意味するので有る。悪のラホが、大天才で有った事は認めよう。しかし、1500年経ち、その言語環境が変化した時、その変化に対応すべく組織を持ちえなかつ

たのは、事実である。それが出来ていれば、この国の言語環境を、変えられた筈で有る。何故なら、1500年前に彼らがこの国の政権を取ってから今も彼らの政権が続いて居るからで有る。しかし今、この国の言語、詰り、言葉が呪われと成っているのは事実で有る。その言葉に、赤旗を掲げる機能は、何故に無いのか。(BNAB)OK.

wの故郷には、ISAIAHの旅立ちの地、エチオン・ゲベルの名、エチの名が残る。ヘブル人、詰りイスラエル人は、元居た土地の名と同じ名を、新しく入植した土地にも、同じ名を付けて行ったので有る。この様にすれば、新しい名を付ける必要もなく、又、寂しくは無かろう。今、この国に有る、人の名、土地の名を、逆ゲマトリアを使って、1500年以上前の名に戻せば、同じ名前が多い事に、気付く事に成る。太平洋を見ても、ソロモン諸島が有る。これは、ソロモン王の時代にソロモンの大艦隊によって、ガダルカナルを、廻ってこの国へ来ていた痕跡で有る。タルシシュ船に依って、金のオフルを目指して来たので有った。詰り、その当時、金のオフルとは、この国の事で有った。(MEAB)OK.

アイチの愛知は、エチの名が漢字に変えられ、それを、アイチと読んだ事に起因するので有る。詰り、アイチよりエチが古い名で有るのだ。この事はただの読みの違いで有るのだが、この国の今の人の名、土地の名は、単純なゲマトリア操作で名付けられたものも有るが、何度も操作に依って名付けられた名も多い。これは、ヘブライの名は、同じ名が多く有った為に、その名に、変化を持たせる為で有った。(Shem)OK.

この国の、名前は何の名が、今、何の名に成っているかは、ルベンの僕がその文書を持っているが、1500年も経てばそれを活用する事も出来ないで有ろう。活用出来なければ、無きに等しいので有る。(Shem)OK.

ISAIAHは、この国に来てから、1200年程は、名は、ISAIAHの儘で有ったが、その後の国語改革に依って、元の名とは、似ても似つかわしく無い名に、変えられたので有る。ISAIAHは、善く1500年も辛抱したもので有る。(ISAIAH)OK.

この国では、今、和言葉と言うものが最も呪われているので有り、漢字の言葉は、半分呪われて居る状態なので有る。詰り、この国が、長い歳月を掛けて、築いて来た、和言葉こそが、今は、呪いの言葉と成って居るので有る。(ISAIAH)OK.

我が先祖で有る、KORETAKAは1100年以上前に、このISAIAHが、終焉を迎えた地に、僅かな手勢を連れ、やって来たので有る。それは、都に居続けると、遅かれ早かれ、命が亡くなる事が解って居たからで有る。それは、KOREHITOとの相撲の勝負でワザと負けた事が始まりで有った。両者が相組んだ時に、KOTEHITOはKORETAKAに、あなたが、もしこの相撲に勝っても、あなたは、王に成ることは出来ない。それは、あなたの命が亡くなる事を、意味する。あなたは、この相撲では、必ず負けておけば、あなたの命は、長らえる事に成る。そう、KOREHITOは、KORETAKAの耳元で囁いたので、有った。FUJIWARAを、その後ろ盾に持つKOREHITOは、KISHIの後ろ盾を持つKORETAKAとでは、その時点で、勝負はついていたので有る。しかし、KORETAKAは、其の儘、都に居続ける程、愚かでは、無かったので有った。KORETAKAは、FUJIWARA側に気付かれぬ様、密かに都を後にしたので有る。そして、近江のエチの奥に隠れ住んだので有る。しかし、FUJIWARAもじっとしてはいなかったので有る。征伐隊が組織され、

KORETAKAを追ったので有る。エチの山深くで、結構の戦が交えられた。どう見ても、KORETAKAに勝ち目は無い筈で有る。しかし、このエチと言う所は、この頃は、KISHIの所領で有ったのであり、それもKORETAKAの読みで有った。結局の所、この征伐隊は、全滅させられたので有る。それ以降も、KORETAKAは、このエチの地を、生涯離れる事は、無かったので有る。何故、KORETAKAは、本来、エチの地にやって来たか有る。それは、この国の紀元を、造り出したISAIAH終焉の地で有る事を、父王から聞かされて知っていたから有る。その為に彼は、この国の最初の王の居た地に、自分を重ね合わせたか有ったので有った。彼こそ、第一の王子で有ったからである。彼は、その地で、轆轤を使った木地の祖として今も尚、崇敬されて居るので有る。(ISAIAH)OK.

このKORETAKAは、父王に於いてより、王位を譲られる事は、ほぼ決まって有ったので有る。その為に、父王は、ISAIAHの事に就いても、次の王としての、伝え事として聞かせて有ったので有る。しかし、そのKORETAKAが王位を、受ける事は無かったので有る。この事は、アブラハムの子、イサクの子、エサウとヤコブの関係にも似ている。詰り、どちらが兄、弟と言う関係の話では無く、イサクの斯業を、ヤコブがついでしまったのに似ている。KORETAKAは、それが故に、エチの地に、籠ったので有った。(ISAIAH)OK.

ISAIAHは、亡くなって埋葬された所は、このエチのハバの山の麓で有った。詰り、ヘブルの山で有る。今は、その所に、トダーのヤシロが有る。それはこの国の言葉で、アリガトウと言う意味なので有る。(ISAIAH)OK.

我が系統は、KORETAKAの系統、それ以前は、ISAIAHの系統で有った。19代王、ダヤの娘、アヤが一人残された、その子孫と成る。その為に、KORETAKAが来たとき、そこには、アヤの子孫が、居たので有る。KORETAKAは、都から、自分の子を連れて来たので有ったが、エチの地でも、アヤの子孫との間に子を設けたので有る。KORETAKAの子はそれ以降、かつて父が赴任していた、東国の地へ移って居る。これは、アヤの子孫との間に出来た父の子に、配慮した行為で有った。(ISAIAH)OK.

このエチの地の、南東に七人山が有る。この国の地図には、ワザと名は記されていない。この七人山とは、七人のサムライ、詰り、悪のラホの時代に殺された七人の首を晒した山で有る。胴塚は、エチの地に有る。七人山の北、30度傾いた所に、今は、アマゴが有る。それは古代の印で有った。この七人達は、わざわざ半島から来た、二人の刺客に依って、葬られたので有る。それは七人が古代の王の子孫で有ったことから、恐れさず十分で有ったから有るが、しかし、半島から来た者にとって、恐ろしい者では無かったので有る。そして、神は、ただ一人、アヤを残されたので有った。それは、ISAIAHの子孫で有ったからである。(ISAIAH)OK.

ルベンの僕にとって、直接、七人殺しに手を染める事をせずとも、半島から来た者どもに、手を染めさせば、呪いを受けずに済むと、考えたので有った。この刺客の子孫は今も、この国に住まいしている。先のKORETAKAが籠った地の裏には、今もFUJIWARAの名を冠する山が有る。彼らFUJIWARAにとって、決してほおっておけないKORETAKAの子孫が、居るから有り、今も、この構図は、変わっていない。(KORETAKA)OK.

我が系統の名は、同じ名で有りながら、二つの系統が有る。これは、先祖を、全く一にしないか

らで有る。一つの系統は、KOREHITOの系統、もう一つの系統は、我がKORETAKAの系統で有る。この両者は、古代に近い時代より、エチの山深く、隣同志に住まいした。これは、その時代より、KORETAKAの子孫を封ずる為で有った。1100年以上経った今も、この関係は、変わらない。この国の、正史とされる中から、KORETAKAの子孫は、消されている。KORETAKAの子孫は、隠者とされて来たので有る。何百年も前に、この両者が、山深いエチの地で、相争った。それは、どちらが正統的に、この名を、名乗れるかと言う争いで有った。そしてその争いに勝利したのは、我がKORETAKAの系統で有った。それは当然なので有った。我が名の意味する所は、それは、この国の基を造り出したその人物の名を、封じて有るからであった。三百年も昔に、我が先祖は、その大事にしていた文書を、相對していた者に依って消失される手前まで行った事が有る。この時は、寸での所で見つけ、その者を殺めたので有る。その事に依り、我が系統の男子に至っては、全て刃物の害を、受ける存在と成っている。その為にも、私wは、何度も死の手前までも、行っている。(Vish)OK.

我が名は、一つにはこの国の基を造り出した者の名を封じ、もう一つは、古代にこの国に居た、エジプト人の王、オグの名、そして太陽神ラーを合わせて名付けられている。ISAIAHが来て以降、エジプト人、オグの王の子孫との混血が有ったからである。つまり、ISAIAHの名と、オグの王の名と、ラーの名とを合わせて有るからである。その事を善く解るには、逆ゲマトリアが出来なければ成らない。(VHAB)OK.

この国の、ヤシロでヤハダ神はISAIAHを神格化したヤシロで有る。我が先祖の地のTSUTSUIは、このヤシロの最も最初のもので有る。ISAIAHが亡くなって後、神格化され、悪のラホの時代以後に今の名と成ったが、この神格化されたヤシロは、TSUTSUIから、次には、四国へ移っている。これは、ルベンの世に成ってからで有る。四国では二度、場所を変えたので有り、その後、USAへ行くので有る。そしてSHOOMUの時代にNARAに上って来るので有る。そしてYAMASHIROの国に来てから、KORETAKAに依って、又、TSUTSUIに戻って来たので有る。この国の西半分を、ヤハダ神は、駆けたので有った。皮肉にも、ウサとは、アルファベットで記すと、USAと成る。つまり、アメリカは、ウサでも有るのである。九州のウサでも有ったが、アメリカ、USAでも有ったのである。この国が、USAの神に負けるのは、名前の道理でも有る。神は分霊もされるので有り、合祀されもする。Shemとは、名付ける神で有る。名は現象を起こす原動力なので有る。今、人類は、その事を、完全に理解せねば成らない。(MEAB)OK.

この国の隣の民、コリアは、3900年程前に、この国に有った、エジプトで、七年連続の飢饉に見舞われた時、この国に居た、エジプト人の一派が、遙々海を渡り、大陸へ到達したその民が、モンゴル人との混血を引き起こした、その子孫が、コリアと成ったので有る。彼らはその後、半島へ南下して国を造ったので有った。(Vish)OK.

ゲマトリアは、本来バビロニアや、向こうのエジプトに有った技術で有るが、この国にこの技術を持ち込んだのは、アッシリアに連れて行かれたルベンが、その方法論を、中国へ辿り着いた時に、漢字文化に出会う事で、造り上げたので有る。そして四国に籠って以後にルベンの世として、政権を奪取してから本格的に、国語改革に手段として使用する事と成った。それに依って、この国の今の言葉は造られたので有る。(Vish)OK.

この国には、12部族の内、大体4部族が、渡って来ている。それは、3000年前に来た、ベンヤミン、そして2700年前に来た、ユダ、2200年前に来た、ルベン、そして、各部族に居た、レビで有る。しかし、少数ながら、イッサカルも来たので有った。3000年前は、ソロモンの大艦隊として、2700年前は、ISAIAH一行として、そして最後に、2200年前に、徐市一行として、来たので有った。この国に、最後に来た者が、1500年以上前に、この国の政権を奪取した後、今のこの国の有様と成って居るので有る。それを、仕立て上げたのが、悪のラホで有った。(Vish)OK.

アバは、今の世界から言うと、未来に於いて誕生し、それは、神の意向に沿った出来事で有って、そのアバに依って、今の世界から言うと過去の時代に、人類は、神の意向に依って、アバに依って誕生させられて、その未来の進化した存在が、アバと、成って居るので有る。(MEAB)OK. アメリカは、シメオンで有る。レビとシメオンは、刃物で解決する部族で有る。(BNAB)OK.

wは、いと小さき頃に、3日の間、起き上がる事が出来ない病に、侵された。もうこれ以上、自分の体に、留まる事が出来なくなり、魂は出でて、天井から自分の体を、眺めて居たので有る。その後、wの意識は、そこから離れて、真っ暗な世界へと進んだ。そしてその中に、小鳥の巣箱の入り口の様な扉を、可成りの高さに見つけたのである。どの様にしてか、わたしは、その扉に到達し、そこを開ける事が出来る事と成った。開ける事が出来るとそこは、中では無く、そこは外なので有って、それは、永遠の天から、永遠の下の世界へ、大音響で有り、全ての火、全てが火が、これ以上の滝は存在しないかの様な火の流れが、瞬間も途切れる事も無い存在として、そこには、有るので有る。それは、全ての音、全ての火として永遠に、そこに存在している存在として、いと小さき者には、悟りとして、自覚されたので有る。その火と一体と成れば、この苦しみから解放されると言う意識が現れ、しかし、その小さき者には、その永遠の火と一体と成る、勇氣は持ち合わせていなかったので有った。そして、私は、又、元の体に、戻って来たので有った。その為に、私は、又、人間として、生きてるので有る。この時から、私の聴覚は傷ついたので有る。人の耳は、あの音響に耐えられる事は無い。この火で有る所のお方が、Shemのお方で有る。このお方が、天地創造のお方で有る。(MEAB)OK.

彼らは、何故に、開かれた生活をする事が、出来ないかで有る。それは、彼らの成り立ちに依って、恐れを抱いた居るからで有る。その初めの、悪のラホの時代から彼らは、滅ぼしてしまった、この国の紀元を造り上げた系統に、変わってしまう事へ、永遠に恐れを抱いているからで有り、言葉の変更が、本来、出来ないのも、彼らの造り上げた、ヘブライでは無い、虚構の世界を永遠に続ける事への権力意識以外の、何ものでも無い。このルベンの僕は、その存在そのものが変更と相入れない存在なので有り、この国が亡びるまで彼らには、その変更を受け入れる力は無いであろう。彼らはその事に依り、長らく政権を保って来たからで有り、彼らの使う、シンボルは、本来ダビデの王宮の壁に飾られていたシンボルで有り、イスラエルの王の象徴、近東の王の象徴を意味するので有る。今それは彼らの権力の象徴と成って居る。この系統が、このシンボルを持ち込んだのでは、無かったので有る。(ISAIAH)OK.

彼ら、ルベンの僕は、ISAIAHの預言書を、全く自分たちに都合の良い様に悪用して来たので有り、何よりも彼らは、そのISAIAH書を恐れて居るので有る。何と成れば、この国の紀元を造り出し

た者の預言書で有るからである。(BNAB)OK.

わたしwは、この様に、神々から聞き、確かめ、日々過ごして居るので有って、この事に偽りは無い。この書を、改ざんする者が有れば、神々は相応の報いを与えられる。我が子たちは、この書を善く確かめ、末永く残されるように。

マヘル・シャルル・ハシ・バズ

2015・5・10